

第33回全国有床診療所連絡協議会総会

と き 令和2年10月11日(日)

ところ ホテルオークラ福岡(福岡市)

[報告:山口県医師会有床診療所部会長 正木 康史]

当初の予定では、本年度は徳島県での総会開催が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で徳島県での開催は1年延期が決定されていた。しかし、今年は全国協議会の会長交代の件等もあって総会を開く必要があり、規模を縮小しての福岡市での開催となった。福岡県有床診療所協議会のご尽力による開催で、会場には出席者ごとにパーティションを設置するなど、十分な感染予防対策がなされた中での開催であった。

役員会

第33回全国有床診療所連絡協議会総会に先立ち、10時30分より令和2年度第4回常任理事会・第1回役員会が開催され、正木が出席した。

冒頭、鹿子生会長より「コロナ騒動や台風の心配のある中、ようこそ福岡においでくださいました。本来であれば本年度は徳島県での開催予定であったが、コロナ禍で来年度に延期とさせていただき、急遽、規模を縮小して福岡での開催となった。引き受けていただいた福岡県有床診療所協議会の皆様に感謝申し上げます。先の日医会長選挙では、全国協議会是有床診に理解のある横倉先生を推薦したが残念な結果となった。私の体調不良もあり今回、会長を退かせていただくが、後任の斎藤会長には日医との良好な関係を構築していただけるものとする。これまでの皆様方のご支援、ご協力ありがとうございました。」と挨拶された。

議題

1. 令和2年度庶務事業報告(松本専務理事)
2. 令和元年度決算について(同上)

上記2件については総会議事の中で報告する。

3. 自民党「有床診療所の活性化を目指す議員連盟」総会について(猿木副会長)

7月2日(木)自民党本部で開催され、全国協議会より①診療報酬改定について(初期加算の日数、点数の引上げ、医師配置加算、看護配置加算、夜間看護配置加算、看護補助配置加算の各点数の引上げ等)、②コロナ禍における医療収入の減少について、③コロナ患者受入れについて(感染拡大時の地域での有床診療所の意義、問題点、今後について)の説明・要望を行い、厚労省から説明・回答を受けた。

4. 令和2年度医療勤務環境改善マネジメントシステムに基づく医療機関の取組に対する支援の充実を図るための調査・研究について(長島常任理事)

調査・研究方針として、①医療機関の勤務環境改善の取り組み状況の情報の収集及びその分析、②モデル事業の実施及びその結果の調査分析、③医療機関に対する実態調査について検討し、今後の事業スケジュールを決定した。

協議事項

1. 会長交代について(松本専務理事)

今回の会長交代の経緯について説明があり、鹿子生会長の退任、新たに斎藤義郎先生の会長選出が了解され、総会に諮ることとなった。

2. 令和2・3年度新執行部案について(斎藤副会長)

新執行部案が提示され、総会に諮ることとなった。

3. 令和2年度事業計画案について(斎藤副会長)

令和2年度事業計画案の説明があり、委員会として了解し、総会に諮ることとなった。

4. 新型コロナ・豪雨災害見舞金について

(松本専務理事)

新型コロナの影響、豪雨災害の被害状況についてのアンケート調査を実施し、損失状況に応じた見舞金を贈ることが了承された(詳細は総会協議事項報告に記載)。

5. 令和2年度予算案について(松本専務理事)

詳細は総会協議事項報告に記載。

総会

挨拶

最初に、原速福岡県有床診療所協議会会長より「福岡にお集まりいただきありがとうございます。コロナ対策には十分気を付けて運営していきたいと思うのでご協力をお願いする。総会、講演会、懇親会を楽しんでお帰りいただきたい」との挨拶があった。

続いて、鹿子生会長より「総会に参加いただきありがとうございます。コロナ騒動で総会開催が危ぶまれたが何とか福岡大会を開催することができ、ご尽力いただいた福岡県有床診療所協議会の皆様には感謝申し上げます。診療報酬改定、介護保険の規制緩和等では一定の評価をいただいているが、まだまだ有床診療所の減少に歯止めがかかっていない。私も体調不良があり、会長継続が困難な状況で、今回、斎藤義郎先生に後任をお願いしている。これまでのご支援、ご協力に感謝申し上げます」と挨拶された。

議事(報告)

1. 令和元年度庶務事業報告(松本専務理事)

会議として、定時総会(令和元年7月27日・28日:群馬)、3回の常任理事会、3回の役員会、その他として、「自民党・有床診療所の活性化を目指す議員連盟総会」を3回、根本厚労大臣へ議連提言書申し入れ、加藤厚労大臣・橋本副大臣・自見政務官への挨拶、全国有床協若手医師の会開催、「有床診療所の日」JCOA共催講演会、公明党厚労部会・社会保障制度調査会・医療制度委員会合同会議出席、厚労省訪問・意見交換など、活発な活動報告があった。

2. 令和元年度決算について(松本専務理事)

松本専務理事より決算報告、高柳監事より監査報告があった。

3. 令和2年度診療報酬改定に対する評価について(正木常任理事)

今回の診療報酬改定に際し、全国有床診療所連絡協議会として日医に10項目からなる要望書を提出したが、そのうちの6項目(①有床診療所一般病床初期加算の増点、日数増加、②医師配置加算の増点、③看護配置加算の増点、④夜間看護配置加算の増点、⑤看護補助配置加算の増点、⑥医師事務作業補助体制加算の新設)もの、想定以上の要望を実現させることができた。この好成績は、我々が今改定の重点項目であった「医師等の働き方改革の推進」と「医療機能の分化・強化・連携と地域包括ケアシステム構築の推進」に即した要望を挙げたことが好結果をもたらした面もあるが、やはり鹿子生会長、葉梨最高顧問をはじめ関係各位による自民党議連などの多方面への働きかけの賜物であるのは間違いないと考える。

4. 令和2年新型コロナ禍アンケート調査結果について(木村常任理事)

- ・外来患者数10%以上減少の有床診療所は全体の約60%あった。
- ・入院報酬5%以上減少も60%あり、元々入院部門の採算性の悪い有床診療所では深刻な影響を与えている可能性が高い。
- ・新型コロナ禍による病床閉鎖は、回答のあった医療機関の5%、64施設あり、その中で35施設が恒久的な病床閉鎖となった。

議事(協議)

1. 会長交代及び会則改正に関し承認を求める件

鹿子生会長の退任、斎藤義郎新会長就任が承認された。

斎藤新会長より「鹿子生会長、長い間ご指導いただきありがとうございました。この全国協議会のおかげで、一時、厚労省にあった有床診療所不要論から大きく立ち直ってきているが、未だ有床診療所の減少が続いている。今後も有床診療所の

活性化に向けてご支援、ご協力をお願いしたい」との挨拶があった。

2. 監事の選出および新役員について承認を求める件

斎藤会長より、監事に大分県の吉賀先生並びに佐賀県の枝國先生の監事選出の提案があり、挙手多数で承認された。新役員案として、鹿子生前会長を最高顧問に、その他、副会長、専務理事、常任理事、広報担当理事がそれぞれ提案され、挙手多数で承認された。

3. 令和2年度事業計画（案）に関し承認を求める件

斎藤会長より令和2年度の事業計画（案）の説明があり、挙手多数で承認された。

令和2年度 事業計画（案）

昨年末に中国武漢から発生した新型コロナウイルス感染症は全世界のパンデミックを引き起こした。日本においてもいまだ全国的に感染確認例が増えており、医療崩壊が危惧されている。また高齢者が医療機関への通院を避けることで、患者減から各医療機関の運営が急速に悪化している。さらに、記録的な大雨や河川氾濫などの自然災害も相次いでいる。

このような未曾有の状況においても、我々は少子高齢社会における地域医療の担い手として、日本医師会・都道府県医師会と連携しつつ国民の健康と生命を守る努力を続けなければならない。

その為に、今年度特例的に以下の事業を行う。

1. 新型コロナウイルス感染症に関して、有床診療所に必要な感染対策について検討し、必要な物品を支援する。
2. 有床診療所の経営状態の調査を行い、状況に応じた必要な支援を行う。
3. 各地の災害の被害を把握し、必要な支援を行う。

4. 令和2年度収支予算（案）に関し承認を求める件

松本専務理事より令和2年度の予算（案）の説明があり、挙手多数で承認された。

5. 災害見舞金に関し承認を求める件

松本専務理事より新型コロナの影響と7月豪雨の被害状況のアンケート調査結果の説明があり、新型コロナでは休診した日数、病床閉鎖した日数等損失に応じた見舞金を、また、7月豪雨災害では被害状況に応じた見舞金（5万円～50万円）を贈ることが承認された。

次期開催県会長挨拶

徳島県医師会の森 俊明 第34回全国有床診療所連絡協議会総会会長より「令和3年10月30日（土）・31日（日）に徳島市での開催を予定している。今年度開催予定であったがコロナ騒動で延期となりご迷惑をおかけしたが、来年度は万全な体制で開催したい。阿波踊り等の趣向も凝らしたおもてなしを予定しているので多くの皆様のご参加をお願いしたい」との挨拶があった。

講演

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のこれまでの経過と対応について

久留米大学医学部感染制御学講座主任教授

渡邊 浩

1970年以降に発生した感染症で、局地的に、あるいは国際的に公衆衛生上の問題となる感染症をWHOは新興感染症と定義したもので、SARS、MERS、SFTS、高病原性鳥インフルエンザ、エボラ出血熱、AIDS、腸管出血性大腸菌O157、レジオネラなどがある。再興感染症とは、既知の感染症で既に公衆衛生上の問題とならない程度までに患者数が減少していた感染症のうち、再び流行し始め患者数が増加したもので、マラリア、デング熱、結核、百日咳、狂犬病、黄熱、ペスト、コレラ、エキノコックス症などがある。

コロナウイルスはエンベロープにある突起が王冠（ギリシャ語でコロナ）のように見えることが語源である。コロナウイルスにはヒトコロナウ

イルス（4種類、いわゆる風邪ウイルス）、SARS コロナウイルス（2002年発生）、MERS コロナウイルス（2012年発生）があり、SARS-CoV-2による感染症をCOVID-19（corona virus disease 2019）といい、感染症法では新型コロナウイルス感染症と言う。SARSは既知のCorona virusとは異なる新たなウイルスで、動物起源説（キクガシラコウモリ）があり、流行地域は中国広東省であった。MERSは動物（ヒトコブラクダ）からの感染やヒト-ヒト感染が報告されているが、暴露歴が不明なものも認められ、流行地域はアラビア半島であった。致死率は約35%で、SARSの致死率約10%より高い。

新型コロナウイルスの伝播様式は飛沫感染、接触感染が主体で、発症2日前～発症前後の感染性が最も高いと考えられており、ステンレスやプラスチック上で72時間程度ウイルスが残存して

いるとの研究結果も報告されている。エンベロープをもつため、エタノールや界面活性剤で失活する。治療は抗ウイルス薬＋抗炎症薬で、抗ウイルス薬としてアビガン（ファビピラビル）、プラケニル（ヒドロキシクロロキン）、カレトラ（ロピナビル/リトナビル）やベクルリー（レムデシビル）、抗炎症薬としてシクレソニド（オルベスコ）、ステロイド（デキサメサゾンが承認）やトシリズマブ（アクテムラ）が使用されている。治療法も確立されてきており、死亡率もかなり軽減してきている。

表紙写真の募集

山口県医師会報の表紙を飾る写真を随時募集しております。

アナログ写真、デジタル写真を問いません。

ぜひ下記までご連絡ください。

ただし、山口県医師会会員撮影のものに限ります。

〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 山口県医師会総務課内 会報編集係

E-mail : kaihou@yamaguchi.med.or.jp

かなえたい
未来がある。

石川 佳純



応援してください。
やまぎんも、私も。

石川 佳純



YAMAGUCHI
FINANCIAL GROUP

山口銀行
YAMAGUCHI BANK